

# 専大ホ

No. 469

[専大スポーツ] <https://www.senshu-u.ac.jp/sports/>  
 [専大スポーツ編集部web] <https://sensuup.com/>

# 悲願の1部復帰

FB永井が18得点



1部復帰を決め、歓喜の胴上げ 撮影=君嶋悠樹(経済2)

蟻 戸さん  
野々村さん  
森 重さん  
冬季五輪 日本代表に卒業生3人

日本スケート選手権大会(12月26~28日、長野市)  
エムウェーブ  
1500mで笠原光太郎(経営4・三条高)が1分45秒88をマーク。僅か0秒62差の2位で銀メダルを獲得した。



1500m 笠原2位

撮影=佐藤佑樹(経済2)

全日本スピードスケート選手権大会(12月26~28日、長野市)  
エムウェーブ

1500mで笠原光太郎(経営4・三条高)が1分45秒88をマーク。僅か0秒62差の2位で銀メダルを獲得した。

イナ冬季五輪に向けた最後の代表選考会。笠原は、10月の全日本距離別選手権大会で初優勝しており、期待が高まっていたが、目標としていた五輪の舞台にあと一歩届かなかった。「悔しいが、全力を尽すことができた。五輪出場にこままで迫ることができたのは、監督、コーチ、家族のみんなのサポートがあったから」と感謝を述べた。(知地泰雅・文3)

## バスケットボール部(女子)

REINA SEGAWA

瀬川 恋奈

(経営4・開志国際高)



## 専大での経験胸にプロの舞台へ

冬季五輪日本代表に卒業生3人 輪に臨むスピードスケート部出身の森重航さん(令5経営)、野々村太陽さん(令6経営)、蟻戸一永さん(令6経営)が選出された。

瀬川恋奈が、Wリーグフードで、背番号は31。ユーチャーのアランマーレ秋田に2026シーズンから加入することが決まり。アーリーエントリー選手としてチームに合流し、1月24日以降の公式戦から出場が可能となる。登録ボジションはパワーフォワードとして活躍した。

4年間を振り返り、自身の変化した部分として「責任」を擧げる。ラストイヤーは2部降格に終り、「結果に結びつかず苦しい一年だった」と話す。しかし誰よりも練習に打ち込み、下級生とも積極的にコミュニケーションを取るなど、背中でチームをけん引する姿勢は、彼女を選手としても人間としても大きく成長させた。

プロへの意識が明確になったのは、U19やユニアードシティゲームズなど代表活動での経験が大きいたと話す。プロを意識したことは、新天地となるアランマーレ秋田について、「自分の地元のチームに声をかけてもらえて本当にうれしい」と顔をほころばせる。「成長する姿を見せて、もういい選手になりたい」と力強く意気込みを語った。大学での悔しさと経験を糧に、プロのコートで新たな飛躍を誓う。(君嶋=写真も)

関東大学ラグビー  
1・2部入れ替え戦

関東大学ラグビーリーグ戦の1・2部入れ替え戦が12月13日、埼玉県の熊谷ラグビー場で行われ、ラグビー部が1部7位の大東大に、33-19で快勝し、4年ぶりの1部復帰を果たした。

FB永井大成(経営3・

高橋尚大(文3・東海大付相模高)、CTB池田太陽の役割を果たしてくれた」と安堵の表情を浮かべた。1部での戦いについて、「今と変わらずに思って、本当にうれしい」と、専大ラグビー部に最高の置き土産を残した。(藤林利英・文2)

## F61kg級 向田が準優勝

### アジア選手権の出場権獲得



決勝でも攻めの姿勢を貫いた向田 撮影=君嶋

日本一を決める“天皇杯”に専大から10人が出場。フリースタイル61kg級で向田旭登(経営4・國學院大學栃木高)が準優勝を獲得した。1月21日、世田谷区・駒沢オリンピック公園総合運動場体育館

手権大会(12月18日)21日、世田谷区・駒

沢オリンピック公園

総合運動場体育館

迫がぶつかり合う激しい攻防が続いた。向田は「自分のスタイルを生かして点を取ることを意識した」との言葉通り、第1ピリオドから積極的な攻めを見せた。相手の右足を捉えて先制点を挙げると、その後も攻めの姿勢を崩さず、残り30秒に

はテークダウンで追加点

を挙げた。しかし第2ピ

リオド終了間際にアンク

ルホールドで連続失点を

喫し、4-14で敗れた。

向田は、「後半、相手に

一気にやられたという点

でふがいないと感じてい

る」と悔しさをにじませ

た。次なる目標に向

け、向田の挑戦は続く。

他の階級では、フリ

スタイル79kg級で高原崇

陽(経済4・高山西高)

が3位に入賞した。

(佐俣莉子・法1)

試合開始から両者の気

日本一を決める“天皇杯”に専大から10人が出場。フリースタイル61kg級で向田旭登(経営4・國學院大學栃木高)が準優勝を獲得した。1月21日、世田谷区・駒沢オリンピック公園総合運動場体育館

手権大会決勝で敗れてお

り、天皇杯でのリベンジ

を誓っていた。

決勝で対戦した長谷川敏裕選手(三恵海運)に

は、6月の全日本選抜選

手権大会決勝で敗れてお

り、天皇杯でのリベンジ

を誓っていた。

日本一を決める“天皇杯”に専大から10人が出場。フリースタイル61kg級で向田旭登(経営4・國學院大學栃木高)が準優勝を獲得した。1月21日、世田谷区・駒沢オリンピック公園総合運動場体育館

手権大会決勝で敗れてお

り、天皇杯でのリベンジ

を誓っていた。

日本一を決める“天皇杯”に専大